全佛婦

No. 131
2020年夏号
7月10日発行

公益社団法人
全日本仏教婦人連盟

全佛婦131号

令和２年７月10日　**発行日**
本多端子　**発行人**
発行所
公益社団法人　全日本仏教婦人連盟
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷
4-5-10-205
03-5772-0677　**電　話**
http://jbwf.jp　**URL**
info@jbwf.jp　**MAIL**

本多良之師　**表紙画**

環境問題と水

霊龍神（おかみのかみ）

貴船神社宮司
高井和大

高井和大（たかい かずひろ）

昭和17年大阪生まれ。國學院大学文学部国文科卒。『神社新報』記者、編集長を歴任し、平成4年、貴船神社宮司に就任。京都府神社庁理事、京都古事の森育成協議会会長、京都洛北・森と水の会会長なども務める。

「千年の都」京都は、日本人にとっては心の故郷であり、あこがれの地として全国各地から多くの人々が訪れ、外国からの訪問者も非常に多くなっています。

が、京都観光といえば嵐山を代表とする洛西エリア、清水寺に代表する洛東エリア、四条界隈を中心とする洛中に人気があり、行政もそれらの地域の情報発信には力を入れて、どうも洛北エリアは忘れられた存在のようになっています。

洛北にもすばらしい神社や寺院があり、豊かな自然に包まれた人々の暮らし、文化が根付いています。「洛北のすばらしい歴史、文化、信仰を神社、寺院の枠を超えて発信してゆきたい」――そういう思いが一つに実り、平成二十三年、洛北地域の三十社寺が集まってNPO法人「京都洛北・森と水の会」が発足しました。以後、毎月一回月例の会を開き、参加社寺が情報交換するとともに、所期の目的達成の為の活動に取り組んでいます。具体的には加盟社寺を順番に巡ってカルチャースクールの開催、子供たちを集めての自然教室、御朱印巡り、フォトコンテスト等々で、神社とお寺が一緒になっての活動に各方面から注目を集めています。

もともと仏教には「山川草木悉皆成仏」という考えがあり、神道は「森羅万象あらゆるものに神宿る」が根本です。似たような考えで神仏習合につながっていきますが、神仏習合については丸山弘子先生がご専門ですので余計なことは申しません。「神仏仲良く」閉塞感漂う今の世、「祈り合う」ことが大事ではないでしょうか。

さて、貴船神社の祭神は霊龍神（おかみのかみ）といいます。古来祈雨・止雨の神として御皇室の崇敬厚く、度々勅使が差遣されて雨が降ってほしいときには黒馬を、雨が止んでほしいときには白い毛の馬を献じて雨乞い、雨止み祈願をこめられています。しかし、雨だけでは生命の源の水を手にすることはできません。降った雨を一旦地中に蓄え、少しずつ少しずつ適量地表に湧き出てくる水をわれわれは使っています。そういう働きを司る神、つまり霊龍神（おかみのかみ）は「水の供給を司る」神様です。

神社がまだ社殿を持たなかった昔、神様は普段山にいて、春になったら里に下りてきて田畑の耕作を見守り、収穫が終わるとまた山に帰ると考えられていました。実際山から何が下りてくるのか。それは水です。降った雨を地中に蓄えるのは樹木の役割です。樹木は大地にしっかり根を張り雨を地中深く押し込め、地下水となって里の人々の命を潤し、また落葉は豊かな土壌を造りスポンジ状に水を蓄えて川に流して田畑を潤す。水は、雨と土壌と森林との霊妙な働きによるものに他なりません。汲めどもなく溢れ出てくる水、その霊妙な働きに、われわれの祖先は人知を超えた働きを感じました。貴船の地名は「樹生嶺」だともいわれており、まことに宜なるかなと思います。

四季温暖な気候に恵まれた日本、そこに住むわれわれの祖先は、自然の恵みをふんだんにいただいて、時には恐ろしいこともありますが、自然の恵みをありがたいと思い、森羅万象に大いなる働きを感じてきました。このような日本人の自然観が即、日本人の神観念でもあります。特に水は、あらゆる生き物にとってなくてはならないもの、その水を育むのは森林の役割であることをとうの昔に人々は知っていました。だからわれわれの祖先は、決して樹木を粗末には扱いませんでした。

日本は「木の文化」といわれ、住宅から家具調度に至るまで木の恩恵をたくさん受けてきました。しかし、昔の人は木を切る度に木の神に祈りを捧げ、「一本いただきます」という謙虚な気持を忘れませんでした。その祈りは、今も山仕事をする人々に受け継がれていると聞いています。

そして、切った後はそれに倍する苗木を植え、さらにそれを育てる植林の知恵を持っていました。この狭い日本の国土、「木の文化」といわれるほどに木を使ってきたならば、とうの昔に山は丸裸になっていたでしょうが、まだ山には豊かな森林が残っています。それは、われわれ祖先の植林の知恵のお陰であることを忘れてはなりません。日本は「木の文化」というよりもむしろ「植林の文化」であり、その知恵は、実は水を守るための知恵でもありました。

本宮表参道の春日灯籠

今ここをおいて どこへ行こうと するのか

愛知専門尼僧堂・特別尼僧堂堂長
青山俊董 老師

青山俊董（あおやましゅんどう）
昭和8年、愛知県一宮市に生まれる。5歳の頃、長野県塩尻市の曹洞宗無量寺に入門。15歳で得度し、愛知専門尼僧堂に入り修行。その後、駒澤大学仏教学部、同大学院、曹洞宗教化研修所を経て、39年より愛知専門尼僧堂に勤務。51年、堂長に。59年より特別尼僧堂堂長および正法寺住職を兼ねる。現在、無量寺東堂も兼務。昭和54、62年、東西霊性交流の日本代表として訪欧、修道院生活を体験。昭和46、57年、平成23年 インドを訪問。仏跡巡拝、並びにマザー・テレサの救済活動を体験。昭和59年、平成9、17年に訪米。アメリカ各地を巡回布教する。参禅指導、講演、執筆に活躍するほか、茶道、華道の教授としても禅の普及に努めている。平成16年、女性では二人目の仏教伝道功労賞を受賞。21年、曹洞宗の僧階「大教師」に尼僧として初めて就任。明光寺（博多）僧堂師家。
著書：『くれないに命耀く』『手放せば仏』『光のなかを歩む』『光に導かれて』『光を伝えた人々』『あなたに贈ることばの花束』『花有情』『生かされて生かして生きる』『あなたに贈る人生の道しるべ』（以上、春秋社）、『新・美しき人に』（ぱんたか）、『一度きりの人生だから』『あなたなら、やれる』（以上、海竜社）、『泥があるから、花は咲く』（幻冬舎）、他多数。

第1講

たった一度の命をどう生きるか――お釈迦さまの仏法 鬼を出すか、仏を出すか

『全佛婦』2020年夏号から「聞」に新しい連載が始まります。青山俊董老師が著された『今ここをおいて どこへ行こうとするのか』です。ドキッとする題名の御本は、皆様の日常生活に役立つ示唆に富んだ言葉が満載です。是非、ご覧ください。

まずは、第一回目のお話は、仏法とは何か、ということに参じてみたいと思います。

すべての人に一日二十四時間、一年三百六十五日という、「時間」という財産を、まったく平等に頂戴しております。物ばかりが財産ではありませんね。その二十四時間という、時間という財産を使っていく主人公はわたしでしかない。わたしの今日、ただ今をどう生きるか、ということにかかっていると思います。

一日二十四時間を、二時間か三時間の中身でしか過ごせないか。三十時間、四十時間の中身の濃さに使い通せるか。あるいは、同じ時間を、鬼を出して生きるか、仏を出して生きるか、闇として生きるか、光と変えて生きるかで、一生がずいぶん変わっていくと思います。

「仏法」というのは、たった一度の命の今を最高に生きる生き方を問う、最高の生き方、最後の落ち着き場所を問うというのが、他ならぬ仏法であります。

一日二十四時間をどう使いこなしていくか、それの集積が人生です。ですから、同じ二十四時間という時間を、鬼を出して生きるか、仏を出して生きるか。あるいは、人生の旅路にはいろんなことがあるに決まっていますけれど、たとえば闇としか思えないことを闇にするか、光に転ずるかで、一生はずいぶん変わってまいります。

具体的なお話を申しあげましょう。かつて死刑囚から手紙がまいりまして、そのお手紙の中に、

この身体 鬼と仏と あい住める

という句が入っておりました。鬼も、仏も何でも出す材料のすべてを持っているお互いですね。

親鸞さまが、「さるべき業縁のもよおさば いかなるふるまいをもすべし」（『歎異抄』）と、おっしゃった。何でも出す材料を全部持っているお互いでありますけれども、たった一度の命ならば、無理をしてでも仏を出していこうじゃないかと、そう思うわけです。どんなにすばらしい生き方をした人でも、あるいはどんなに修行をした人でも、悪い条件を揃えられたら何をするか、わかりはしない。反対に、悪魔のように恐れられている人でも、ことと次第では仏さまも顔負けするほどのことだってやることができる。すべての可能性を持ったお互いだけれども、たった一度のやり直しのできない人生なんだ、無理をしてでも仏を出していこうじゃないか、そういう一つのたとえのお話です。

わたくしの普段おります名古屋の修行道場と、自坊の塩尻の方と両方で、夏に二泊三日の禅の集いをしております。

だいぶ前ですが、名古屋の道場の方の、禅の集いに、信州の須坂というところから、小田切さんというおばあちゃんが参加されました。二泊三日を終えてから、「先生、少しお話を聞いてくれますか」と部屋へ来られた。定年退職後の二人の生活のやりきれなさを訴えてまいりました。

だんだん、おばあちゃんの顔が鬼みたいになってきまして、最後、「主人を殺したい」という言葉まで口から出ました。わたくしは、

「三十年、四十年ご一緒して、最後、そんな別れは悲しいね。別れていいからね、三日でいいから、最高のあなたのあり方をして別れてくれませんか」

と言いました。

「三十年、四十年ご一緒したら、ご主人が、何がいちばん好物かも、誰よりもあなたが知っているわけだから。ご主人の好物のお料理を心を込めて作ってね」

と言いました。純なおばあちゃんでしてね、「三日でいいですか」と（笑）。「三日でいいよ」、「そんならやってみます」と。

幼稚園の子どもに話すように、「三、四日、留守をしたわけですから、『参禅会で三日も留守をして、勝手をさせていただいて』と御礼を言ってね。帰りにご主人の好物のお料理の材料を買って帰ってね」と、子どもに話すように言いました。

その通りにしたんですね。三日、要りませんでした。翌日の昼、ご主人から電話が入って、「三日間で家内をあれだけ変える先生に会いたい」と（笑）。

ご夫婦そろって仲良く参禅聞法をするようになりました。お二人とも高齢で、ご主人は少し前に亡くなり、おばあちゃんは今も時折お便りをくださっております。

これなんですね。何でも出す材料を持っているお互いなのだけれども、たった一度のやり直しのできない命なんだから、無理をしてでも仏を出していこうじゃないか、ということです。

05

NYORAISAMA
BOSATSUSAMA

如来（にょらい）さまと菩薩（ぼさつ）さま

ほとけさまのサイン Sign

著者略歴【浦井正明（うらいしょうみょう）】

昭和12年東京生まれ。天台宗僧侶。東叡山輪王寺門跡門主・寛永寺貫首。慶應義塾大学文学部史学科卒業。東叡山現龍院前住職。寛永寺執事長、台東区教育委員会委員長、台東区文化財保護審議会委員等を歴任。『もうひとつの徳川物語 将軍家霊廟の謎』等著書多数。

「ほとけさまのサイン」
編集・発行　天台宗出版室

浦井正明師；「阿弥陀さまはなぜ九ツもの印相を示しておられるのか。お不動さまはどうして怖いお顔をして、剣などをお持ちなのか。本書はこうした疑問にお答えするために書いたものである。（中略）仏さまは本来拝まれるために造られるのである。いいかえれば、私たちが仏さまに何を願い、仏さまはそれにどう応えてくださるのかということなのである。」

図2

大仏師　山高龍雲

図1

大仏師　山高龍雲

如来さまって？

私たちは、お釈迦さまや阿弥陀さまのように如来と呼ばれる仏さまも、観音さまや文殊さまのように菩薩と呼ばれる仏さまも、みんな仏さまとお呼びしています。

でも、如来さまと菩薩さまは、もともと違った存在なのです。

では、どう違うのでしょうか。

如来さまが、すでに完全なお悟りを開かれたお方だということはもうごぞんじですね。ですから、如来さまはどんなことに対しても、一切の執着（とらわれ）の心がありません。そのことを表すために、普通、如来さまは装飾品などは全く身におつけにならないのです。着ておられる衣を見て下さい。ごく簡単な衣一枚を身につけておられるだけなのがお解りいただけますか？（図1）その上、如来さまは、ご自分のお心を私たちに伝えるためにどうしても必要なもの以外は、一切何もお持ちにならないのです。

菩薩さまは？

では、菩薩さまの場合はどうでしょうか？

皆さんお馴染の観音さまにしても、文殊さまにしても、みんな美しい衣を身につけられた上に、更に冠をかぶったり、瓔珞と呼ばれる美しい装飾品を身につけておられるではありませんか。（図2）

仏さまがそんなに着飾ったりなさってどうされたのですかーそうお聞きしてみたくなりますよね。でもちょっと待って下さい。それにはちゃんとしたわけがあるのです。

わかりやすく言えば、もともと菩薩さまは、お悟りを開く前のお釈迦さまのお姿なのです。

菩薩さまは人間？

「じゃあ、菩薩さまは人間なの？」

そうです。菩薩さまは「お悟りを開いて仏さまになるために修行中」の人間なのです。

人間はいろいろな着物をきたり、装飾品を身につけたりしますよね。イヤリング、ネックレス、ブレスレット……。

「それにしても、少し派手すぎやしないかなあ」。

そうですね。世の中はもっと質素な身形の人がずっと多いですね。

でも、もう一度、菩薩さまの原点に戻って考えてみて下さい。さっき、菩薩さまはお釈迦さまに昔のお姿だと言いましたね。お悟りを開く前のお釈迦さまをごぞんじですか？

「たしか、王子さま？」。

そうです、インドのシャーキャ族の王子さまです。ですから、お釈迦さまは貴族の出身というわけです。菩薩さまは王子時代のお釈迦さまをモデルにしていますから、宝冠や装飾品を沢山つけておられるわけです。

なぜ人間を拝むの？

というと、「仏さまになっていない人間（菩薩さま）を拝むわけ？少し変だと思うけど…」。

いやいや、さすがに鋭い質問ですね。その通りですけど、大乗仏教では菩薩さまのことを、こんな風に考えています。

実は、菩薩さまは修行中なのではなく、本当はすでにお悟りを開かれて、如来さまとなられた身でありながら、私たちを救って下さるために、わざと如来さまであることを放棄して、菩薩さまのお姿で、私たちのもとへ来て下さっているというわけです。

つまり、大乗仏教でいう菩薩さまとは、如来さまでありながら、私たちに対する慈悲のお心から、極楽浄土でゆっくりとしておられることをせずに、わざわざ私たちに救いの手を差し延べて下さっているということなのです。

私たちにお馴染みの観音さまや文殊さまという菩薩さま方は、実はそういう仏さまなのです。

ですから、菩薩さまは私たちにとって、如来さまと同様に、まことに頼もしい仏さまというわけです。

公益社団法人日本仏教婦人連盟　第8回総会開催

今般のコロナウイルス禍のため3月の予算理事会及び5月の決算理事会を書面決議理事会にて議案の決議は承認され、6月9日（火）午後1時より台東区西浅草の浄土真宗東本願寺派本山東本願寺「慈光殿」において少人数での第8回総会を開催いたしました。

総会に先立ち当寺総務部長城正弘師からご挨拶をいただきました。

「コロナの情勢が出たときに政府から3密という言葉が発信されました。皆さんご存じのように真言宗系の方は三密ということをおっしゃいます。仏教のサイドに立って考えます三密とは身口意の三業ということを今一度見直しなさい、身体と口の言葉と心です。不要不急の外出はしない（身）。マスクをする（口）。不平不満他人の誹謗中傷を目にします（心）。我々は仏様の心のみ教えを頂いて日常生活を送っている。それを日々見直して参りましょう。コロナ禍の最中で不平不満が出てくる日本社会です。

世界中に眼を向けますとブラジル、インドではこれから蔓延していくのではといわれております。日本では水道はあります、衛生観念も発達しているしマスクも手に入ります、病院も医療関係もご苦労されておりますが、このまま終息にはまだ懸念がある。

皆さんご存じのインド農村地帯では手を洗う水はない、ましてや飲み水のきれいな水さえなく、貧困であえいで苦しんでいる場所では引き続き人類を悩ましていくことであろうと、そうした方々に仏様の御心をいただいて何か仏教徒として働きかけていく大切な機縁になっていることと思います。長年の対外的な活動に参画している仏婦の皆様にさらなる働きかけをしていただきたいと祈念いたします」。

梨本副理事長の司会にて開会。まず三帰依文を一同唱和。続いて、出席会員7名、議決権行使書132通により総会成立の報告後、本多理事長からの挨拶。

「三か月の間、活動を自粛しておりましたので、皆様と顔を合わすこともできませんでした。通常の総会とは違い、本日は少人数での総会となりました。私も昨年の総会にて理事長に就任いたし一年となります。皆さんのご協力があってこのように一年過ごせまして感謝いたしております。ではご審議の程よろしくお願いいたします」。

議長に日比野常務理事、議事録署名人に松井常務理事、遠賀理事の選出に続き事務局より事業報告が読み上げられ、木村監事より決算報告を詳細に説明、続いて監査報告があり、承認されました。

今年度事業計画、および予算報告があり無事午後2時に閉会。

今後の事業計画として10月28日予定67回大会、文化講座、特に延期となっております京都仏教セミナーは今年度中に実施したいとの報告。また、写経を広く会員等に呼びかけていく。なお引き続きあおぞら奨学基金、里親運動、心の募金と継続事業として皆様のご協力をお願いしたい。

へえ！そうなんだ　生活の中の仏教用語

一大事・安心

【いちだいじ・あんしん】

◉ 一大事

「大事」といえば大切なこと、「一大事」といえば大事件、大問題というふうに解釈されているが、本来の意味は「お釈迦さまが衆生済度（救う）のために、この世に現われたこと」が、一大事ということの意味である。サイフを落とした程度では、一大事とはいわない。

「天下の一大事」や「我が社の一大事」となれば、誰でもが緊張する。天下の一大事といえば、戦争の勃発であろうし、我が社の一大事といえば、我が社が倒産することであろう。我が社があえなく倒産しても、隣りの会社は我が世の春を謳歌しているかもしれない。しかし、その会社も翌年は倒産ということも有り得る。いかなる一大事がおきようとも、生き生きと生きられる人間を作ってゆこうとしたのが、お釈迦さまの一大事であった。

◉ 安心

現代は「不安の時代」といわれ、何事につけても安心はしていられない。仏教では安心を「あんじん」と読み、文字通り「心が安らかである」という意味である。何故安らかでいられるかといえば、「絶対の法の上に心を落ちつけているから」ということになる。浄土宗では、阿弥陀さまの本願（誓い）により、必ず極楽に往生するという確信によって、安心が得られると教えている。

現在、皆が不安だ不安だと騒いでいる原因の一つは、「不信」の時代であるからといえる。人間がお互い同士、なかなか信じられなくなってしまったからである。それは、現代人が形のあるものばかりを信じようとしたところに原因がある。形のあるものは変化し、結局裏切られることになる。

畫間玄明著『生活のなかの仏教語』（1995年3月、すずき出版刊）より

お写経のすすめ

Shakyo no Susume

お写経は、仏教の経典の文字を一字一字、丁寧に書写することで、心身を清める修行として、大きな功徳があります。経典は、お釈迦様のありがたい教えをまとめたものなので、お写経を繰り返すことでその意味を感じ取りながら仏教の教えを学ぶことができます。

お写経とは本来、徳を積むための行為であり、見返りを求めて行うものではありませんが、お写経を始めるきっかけとして、まずはどんな効果があるか知りましょう。

現代の医学的見地からみても、写経や読経が自己の治癒力を高める効果をもたらすということが分かっています。一つのことに意識を集中させることによって、神経系統、特に大脳の働きが整理されて、からだ全体がバランスよく保たれます。そして各器官が活発化してくるのです。

最近では大学などの研究で、写経は字を書くという指先を使う作業のため、脳を活性化することに効果があり、認知症の予防を目的に高齢者用のリハビリプログラムとして有効であることが証明されました。多感な青少年、また高齢者のためまで幅広く効用があることが、いま科学的にも注目されています。

お写経の効果

1. 指先を使うことで、**脳を活性化**させることができます
2. 姿勢がよくなり、**心と体**が落ち着いてきます
3. **自然の治癒力**が向上します
4. **集中力と忍耐力**がついてきます
5. **字が上手**になります
6. **イライラを解消**し、疲労回復がはかれます
7. 心が清浄になり、**安心の境地**が得られます

般若心経　**舎利礼文**　**十句観音経**

写経用紙は上記の三種類を用意しております。必要枚数をお申し込みください。（ホームページからも印刷できます。）

- お写経はインド・ブッダガヤの「インド山日本寺」の宝篋印塔にお納めします。
- 奉納金は一巻につき般若心経１０００円、舎利礼文・十句観音経各５００円をお願いいたします。
- お納めいただいた奉納金は、日本寺境内にあります光明施療院において、ガヤ地区の医療活動から子供たちと保護者への健康、保険指導へと活用させていただきます。

問合せ先

（公社）全日本仏教婦人連盟
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷
4-5-10-205
【TEL】 03-5772-0677
【FAX】 03-6434-0184
【URL】 http://jbwf.jp
【MAIL】info@jbwf.jp

写経？ 今でしょ！

こんな時だからこそ！

仏教興隆と写経

常務理事 **日比野郁皓**

現在の漢字の仏教経典は印刷技術のなかった時代に留学僧によって中国語に翻訳され、書写されたものを原型としています。つまり仏教経典の世界への伝播は写経によって始まったのです。

西暦四世紀頃インドと中国の間に存在した小さな王国の一つ、亀茲国の王族から出家した鳩摩羅什は長安で約三百巻の経典を写経し漢訳されました。七世紀の僧侶、玄奘三蔵はインドに十六年間滞在して写経し、六百巻以上の経典を中国に持ち帰り、長安で生涯をかけて漢訳されました。これらの訳聖たちの仏教布教の努力と情熱があって初めて、私たちは今、経文を読ませていただけることを忘れてはなりません。

後世になって印刷技術の発達と共に写経はその役割を変え、個人の功徳や亡き人への回向等のために行われるようになりました。現在の「写経会」では仏前でお導師に読経いただき、清浄な心で丁寧に写経をいたします。最後列の左側には祈願の内容、追善回向を手向ける方の法名を書きます。最後に各自仏前へお供えします。多くの人々によって実践されている現代の写経は、仏教興隆の新しい役割を果たしています。（榧寺住職）

「写経」とのご縁

常務理事 **松井百合子**

今、「写経」に対する関心が高まっているようです。写経が本当に心の支えになったという方に、お話をお聞きすることができました。

その方は、お父様が他界されて心の平穏を失い、お母様からの叱声に空虚な気持ちに。ただ悲しく悔しく情けない思いでいっぱいだったとき、雑誌やテレビで写経を知り、はじめは目の前にあったチラシの裏に、ボールペンで書きはじめたそうです。今では、墨をすり、筆で写経用紙に写経をしていらっしゃるとのこと。ご自身と写経について、さらにこのようにお話しくださいました。

墨の匂いは心が落ち着き、墨をすることで心が集中し、無心に、ただ筆を進めている自分がいます。その時間が何よりも幸せな時間です。写経を通じて、「すべてにやさしくありたい」と思うようになりました。実際にはなかなか難しいことですが、若い頃よりも「トゲ」はなくなったかなと感じています。これからも、写経を続けていきたいと思っています。

最近は、パソコンの活字が多く、手書きの文字を目にする機会が少なくなりました。このような時代だからこそ、写経に親しみ、心の平穏をいただきたいものです。

今後とも当連盟の写経運動にご協力をいただきますよう、お願い申し上げます。合掌

Letter from a scholarship students

あおぞら奨学基金

東日本大震災から早９年が過ぎました。当連盟では年間６名の高校生を支援しております。これまでに18名の生徒が卒業し、それぞれに成長していることと思います。今年は女子高生１名が卒業され、感想文がとどきましたのでご紹介いたします。

将来がんばりたいこと

今まで長い間ご支援いただきありがとうございました。あおぞら奨学基金サポーター様のご支援のおかげで看護師になるという夢を追って、自宅から離れた高校へ、３年間通い続けることができました。また教材や参考書を充分に購入することができたため、思いきり学業に励むことができました。学習面のみならず、所属していた卓球部で使うラバーなどの道具の購入や、大会遠征への参加ができたことで部活動の面でも充実させることができました。そのおかげで、２年生の時に出場した新人大会では、地区大会を勝ち上がり、県大会に出場することができました。本当にありがとうございました。

私は将来、地域で活躍できる看護師、特に保健師になりたいと考えています。医療ニーズの多様化が進む昨今、地域医療のあり方が改めて見直され始めています。日本は超高齢化社会を迎えつつあり、政府でも、病院での治療が中心の従来の医療から、在宅医療への切り替えが検討されています。そのため、保健師になることで医療の質だけでなく高齢者の生活の質も向上できるような在宅医療を研究し、行いたいと考えています。そのためにも大学では、在宅医療だけでなく、病院で行われる最新の医療についてしっかりと学ぶつもりです。そして、病院での医療と在宅での医療の質の差を埋める方法を考えたいと思います。病院での医療から在宅医療に取り入れるべき部分は他にも多くあります。例えばチーム医療です。現在行われている在宅医療では知識や視点が医師と看護師に偏ってしまいがちであるという問題点があります。しかしある程度患者自身の力で生活しなければならない在宅医療では、様々な医療職スタッフによる多面的なサポートが、患者の生活の質の向上には不可欠です。そのため、病院で働くスタッフとの話し合いの場を定期的に設けたり、保健師と共に患者を訪問するといった制度を作る必要があると私は考えます。私が保健師になったらこれらのことを実現し、地域の医療をより良いものにしていきたいです。

将来は私の地元である陸前高田市で働き、復興を支えていこうと考えています。医療と復興はあまり結びつかないように感じられるかもしれません。しかし、医療の発展は住みよい町づくりの一歩となり、それが人口増加を促し、やがて活気のある町を取り戻すことに繋がると思います。陸前高田市は「より良い町にしたい」という意識が強く、老若男女問わず多くの人が主体的に活動をしています。私もその一人として、地元に貢献していきたいです。

高校・大学を卒業した後も、常に最先端の知識と技術を持ち続けるために、日進月歩する医療を日々学んでいく必要があります。また、学ぶだけでなく、自分自身で研究し新たに道を切り開き生み出していかなくてはなりません。大変なこともあると思いますが、高校生活で培った探究心を学び続ける姿勢、何事も諦めずにやり抜く精神を忘れずに頑張っていきます。

引き続き5名と新たに奨学基金を希望されている1名を、今年度も支援してまいります。子どもたちが、未来に向けた一歩を踏み出せますよう一人の高校生1年12万円（1か月1万円）の学習支援です、皆様のご協力をお願いいたします。

花の種運動

平成16年に始めた花の種運動は、すでに17年になり「思いやりの気持ち」から「水は宝物」そして「海はひとつ」と「子供たちの未来のために」のテーマに繋がれ、リーフレットに会員の手作業で花の種を付けて、皆様のお手元に届けております。

ひと粒 Tane 種

Thank you for your letters.

「きれいに咲きましたよ」といって下さる方、「今年は何の種」と楽しみにしていらっしゃる方がおります。ありがとうございます。

今年はイベントなどがなくなり、お花の種がなかなか渡せない状況でしたが、学校がお休みとなり、子供たちに配ったところとても喜んでいただいたそうで、すべての花の種が子供たちの楽しみの種になりました。

本日は先ごろお送りくださいました花の種を蒔きましたところ、今、矢車草が見ごろとなり美しく咲いてくれております。一部切り取りまして部屋に飾りました。ピンク色がとても可愛い花で、部屋に飾り部屋を明るくしてくれています。仏婦の方に見ていただきたく、写真をお入れいたしましたので見て頂ければと存じます。

全日仏婦から頂きました、朝顔の種を５月１日に撒き、健やかに成長してます。苗を養子縁組に出したり、近所のあさひ山公園に植えさせていただきました。苗をおすそ分けした皆様からぞくぞくと朝顔ニュースが届いてます。お陰様で朝顔と笑顔の輪が広がりました。感謝申し上げます。

今年の花まつりにどれほどの参加者があるかわかりませんが、このような時こそお花の種が人々の心を和ませることと思います。セットをお作りいただくお手間を思いますと、感謝の気持ちでいっぱいになります。

仏婦NEWS抄

私たちの
日々のあゆみ
2020年4月～6月

事務局だより

4月10日　「沙羅の樹」13号発行
5月7日　監査会（事務局）
6月9日　第8回総会（浄土真宗東本願寺派　本山東本願寺）

全日仏婦事業に多くの方々よりご協力いただきありがとうございます。それぞれの活動に運用させていただきますので、どうぞ今後ともよろしくお願いいたします。
（順不同・敬称略6月30日現在）

▼賛助金にご協力の方々

曹洞宗　真言宗豊山派
浄土真宗東本願寺派本山東本願寺
念法眞教　真言宗須磨寺派
真宗木辺派　法華宗陣門流
総本山知恩院　三千院門跡
日光山輪王寺門跡
毘沙門堂門跡　中宮寺門跡
圓照寺門跡　大本山池上本門寺
大本山川崎大師平間寺
大本山成田山新勝寺
大本山高尾山薬王院
高幡不動尊金剛寺
聖観音宗浅草寺
大本山善光寺大本願
音羽山清水寺　孝道教団
天王寺　總持寺　上品蓮台寺
妙清寺　梅窓院　龍光寺
回向院　寶生院　淨眞寺
清岸寺　光明院　宝蓮寺
東園寺　安国寺専門僧堂
正覚院　傳通院　善養寺
（公財）仏教伝道協会
（一財）京都仏教会
神奈川県仏教会　日本仏教鑽仰会
大和証券㈱　㈱中山石渠
㈱経営総合研究所
柴田龍太郎（弁護士）

▼写経運動にご協力の方々

村上和之　佐々木公子
末廣久美　大野美子
梨本三千代　中島美世子

飯島恵美子　石上文子　福島フミ
桶谷保子　鈴木良一　渡部照美
浅川智久　岩脇孝子

▼福祉関係にご協力の方々

梨本三千代　日比野郁皓

▼花の種運動にご協力の方々

長尾節子　山居享子

▼あおぞら奨学基金にご協力の方

丸山弘子

▼「全佛婦」誌代にご協力の方

長尾節子

ご冥福をお祈り申し上げます

- 櫻井英幸師（賛助会員）令和2年4月30日
- 張堂完俊師（賛助会員）令和2年6月3日
- 大賀美都子姉（顧問）令和2年7月1日
- 永崎亮安姉（会員）令和2年5月2日

プロフィール◎　浄土真宗本願寺派僧侶。1976年生まれ、福岡県出身。早稲田大学社会科学部・第一文学部東洋哲学専修卒業。早稲田大学文学研究科東洋哲学専攻修士課程中退。築地本願寺内の（一社）仏教総合研究所事務局に勤務の後、2011年～2017年までドイツ・デュッセルドルフのドイツ恵光寺においてヨーロッパ開教に携わる。2017年より（公財）仏教伝道協会に勤務。2018年に「輝け！お寺の掲示板大賞」を企画し、話題を集める。著書に『お寺の掲示板』（新潮社）。連載に「「お寺の掲示板」の深～いお言葉」（ダイヤモンド社「ダイヤモンド・オンライン」）などがある。NHK「宗教の時間」、NHK「あさイチ」、テレビ朝日「タモリ倶楽部」などメディア出演多数。

お楽しみに！

第121回文化講座延期について

9月に予定しておりました第121回文化講座ですが、延期とさせていただきます。日程が決まり次第お知らせいたします。

「お寺の掲示板に見る仏教の教え」
講師：江田智昭（えだともあき）師

へぇ！そうなんだ　生活の中の仏教用語

平等・差別

【びょうどう・さべつ】

自由、平等、博愛というと、いかにも現代風の言葉であるが、宇治の「平等院」でもわかるように、古くからの仏教語である。珍しく「びょうどう」と仏教語読みで現在も読んでいる。

平等とは文字通り等しく、一様で、共通であるということである。お釈迦さまはインドで、四姓（僧、王、庶民、奴隷）の差別を否定して平等を唱えたが、現実には仏教がすたれ、差別が残ってしまった。仏教の教えでは、仏と衆生（私たち）とはともに仏性をもっている点で平等であり、差はないとする。これは仏教の独自な点であり、教えの基本である。

現実の社会生活のなかでは、差別はかなり行われている。人種差別、男女差別、部落差別など。仏教では、差別を「しゃべつ」と読み、現在使われている意味と少し違う。差別に上、下の意味はもたせていない。本来は、そのものの性質や能力が他に比べて際立っている（殊勝）、また、それぞれの異なった独自の姿で存在しているさまをいう。つまり、それぞれが独自の姿を保ちつつ、生き生きと存在することをいう。各々の異なったままの存在と意義を認めているわけである。

伝教大師は、さらに一歩進めて、個々の存在が内包する違いを無視した平等は悪平等であり、平等なき差別は悪差別と述べている。平等は追及されなければならないが、現実の差別を無視することはできない。好醜・能力・技倆の差にとらわれて差別をつけ、その奥にある平等を見ない差別主義は、歴史上多くの惨禍を生み出した。

私たちは好むと好まざるとに関わらず、差別と平等の緊張のはざまに存在している。その真剣な葛藤、苦悩のなかから、人間の深さが生まれ、思いやりが生まれ、ギリギリのなかで信仰が生まれてくる。

書間玄明著『生活のなかの仏教語』
（1995年3月、すずき出版刊）より

公益社団法人全日本仏教婦人連盟

入会へのおすすめ

全日本仏教婦人連盟は６０年の歳月を積み重ね、平成２５年４月より公益法人としてスタートいたしました。

私たちは、仏教精神によって組織されている各種の仏教団体と連携しながら、全ての人々が国家や民族、宗教、言語、文化の違いを超えて共生し、人々の尊厳が実現するよう、婦人の立場から社会および家庭生活に寛容精神を培い、国内外の福祉向上に寄与することを目的としております。

この機会にぜひ会員として、目的達成のために活動を共にし、ご協力をお願いいたしたく入会のおすすめを申し上げます。

１、会費、入会金を添えて申込書にご記入の上お申し込み下さい。
２、会員の特典
会員に対しては連盟が開催する各種の会合及び事業のご案内をいたします。
イ、各協力団体への研修会等参加及び協賛。
ロ、古寺めぐり等文化事業への参加。
ハ、機関誌「全佛婦」「沙羅の樹」の送付。
ニ、社会福祉事業（救援事業･被災地支援等）。
ホ、「子どもたちの未来のために」（環境・教育問題）取り組む。
３、詳細は事務局へお問い合わせ下さい。

東京都渋谷区千駄ヶ谷4-5-10-205
☎ 03（5772）0677
http://jbwf.jp

編　集　丸山弘子・山口偉理子・末廣 綾
デザイン　中野 妙（合同会社まに）